

子どもの心を 強くするなんて無理？

私は *NO* だと思う。

思春期・青年期は大きく成長すると同時に心のバランスが崩れやすい時期。そうなる前に様々な経験にふれ、準備をすることで、困難に負けないしなやかな心を育てることは可能だと考えます。

そこで心理学の視点は多くのヒントを与えてくれます。子どもがより良い毎日を過ごせるように。データに基づいた心理学による予防教育は、これからさらに必要とされることでしょう。



三宅 幹子

MIYAKE MOTOKO

専門

発達心理学 教育心理学

研究キーワード 児童期・青年期の発達 自我発達 対人関係 情報モラル ピア・サポート

教育学域 教授

大学院：教育科学専攻(修士課程) 担当

学 位

博士(心理学)(広島大学)

授業内容

発達心理学特論・発達心理学特論演習：学齢期の子どもの発達について、現代的教育的な視点も含めて学びます

教育科学研究の方法(調査法、実験法)：教育現場での科学的議論に耐えうる客観データの収集法、客観データから科学的な結論を導き出す方法を学びます

主要研究課題

子どもの社会性育成やインターネット使用、思春期・青年期の自我発達などを研究しています

・子どものインターネットの自律的使用態度・スキルの育成

・ピア・サポートプログラムによる社会性・人間関係能力の育成

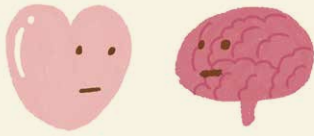
・自我発達・アイデンティティの発達

もっと知るには



三宅の発達心理学

01 小・中・高校・大学生の発達心理学



発達心理学の中でも特に子どもが大人になっていく過程を研究しています。特に、知識や思考力が急速に伸びる時期に、心の成長がそれに追いつかないことで生じる「知と心のズレ」からくる課題にフォーカスし、発達段階に合わせて、適切な支援策を提供していきます。

02 立ち向かう力を授ける予防教育



思春期・青年期の問題に対して、問題が発生する前に対処する力を育むのが予防教育。子どもをストレスから守るのではなく、発達段階に応じてストレスと付き合う力を身につけさせることが大切だと考えています。特に社会性や人間関係構築の領域での予防教育に力を入れており、困難に直面しても対処したり立ち直れる力を育てることを目指しています。

03 教えるより大切な漢方薬的スタンス



現場に行き、子どもたちに行うアプローチは、何かを教えるのではなく、「どうしたらいいだろうね」と一緒に議論すること。子どもたちが自ら考え、議論し、自分たちで解決策を見つけていく過程を重視しており、即効性のある特効薬ではなく、時間をかけて内側から変化を促す「漢方薬」的な教育方法を実践しています。

04 ピア・サポート



同年代や異年齢の子どもたち同士が互いに支え合い、学び合う関係を築くピア・サポートの考え方を大切にしています。このアプローチは学校現場での実践だけでなく、研究室運営においても理想的で、上級生が下級生を指導し、下級生は上級生から学ぶという縦のつながりを大切にしてほしいと思います。

データ
サイエンス



心理学

05 ネットのアイディクシヨン予防



現代の子どもたちが直面するネット依存やネットトラブルに関する研究と予防に取り組んでいます。特に初めてネットの世界に入る小中学生に対して、適切な利用方法やリスク回避の方法を身につけてもらうことを重視していて、子どもたち自身が議論を通じて適切な使い方を考えられるよう支援しています。

06 セルフの心理学、アイデンティティの心理学



思春期・青年期は人生の航路を見定める自分探しの時期。子どもの自分に別れを告げ、新しい大人としての自己（セルフ）の像、すなわちアイデンティティを創っていきます。そのプロセスでは自分へのまなざしが深まり、時には新しい自己像を見つけきれない苦しみも味わうことに。この道筋について理解を深めていくことも青年期の発達心理学の主要なテーマの1つです。

07 研究テーマは自分で見つけられる



研究テーマを見つけることに苦労する学生さんは少なくありません。でも、自分でしっかり悩み心から「自分の時間と労力を捧げてほしい」と思えるテーマを選ぶことで、研究の困難に直面してもやり抜くモチベーションになると考えています。また、「テーマを選ぶだけでなく、テーマからも選ばれている」という視点を大切にしてほしいと思っています。

08 データサイエンスと心理学



データサイエンスを活用し、心理学への新たなアプローチを模索しています。数学も好きだし、人のことを考えるのも好き。科学的に人の心を読み解き、伝えられるようになりたい人にはぴったりの研究室だと思います。教育学研究科の教育学専攻教育データサイエンス学位プログラムでは発達行動科学特論演習も担当しています。

研究室からの風景

SCENERY FROM THE LABORATORY

宿題うつさせて！

「宿題うつさせて！」って、もし友達に言われたどうする？そんな場面でのふるまい方を小学校の授業で子どもたちに考えてもらった事もありました。その中で、「友達の頼みを断るのは仲良くないじゃないですか」と意見がでて驚きました。子どもにとって「仲良く」とは波風を立てないことと解釈されることもあるのです。そこに正解も間違いもありません。「どうして出来なかったのか寄り添う」、「一緒にやろうと誘う」など、解決策を考えるうちに子どもの心はしなやかに鍛えられると思っています。

子どもたちの
生活を
よくしたいビッグデータと
臨床像を
紡ぎ合わせる

大量データと向き合う現代では、それを読み解く上で正しい「ヒント合わせ」が不可欠です。ビッグデータは、自分がじかに触れて取得したデータとは違い、読み解くのにセンスと経験が求められます。データに意味を見出し、自分だけの視点で分析するには理系的分析力と人間への深い理解の両方が必要です。
データという素材を人間の洞察力で射抜く訓練に、ここは最適な研究室かもしれません。

どうして
対人関係で
悩むのか

一言でいうと、経験不足が背景にあることを無視できないと考えています。
近所の子と喧嘩したり、叱られたり、褒められたり。いろんな貴重な経験することによって身につけてきたものが今は少なくなっています。
だからそういう子たちに口だけでこうすればいいんだよとスキルを教えてもダメなんです。
やっちゃいけないことを頼まれたら？仲間の悪口聞いたら？そういう子どもたちがつまづきそうな事を疑似体験する機会を、授業を通して提供してあげればと思います。

現場まろごと
育ちあう

ピア・サポートを学生と教育現場で実践する際には、子どもの様子以上に意識しているのが、子どもをとりまく周囲の動向です。
主に先生方に見ていただくのは子どもがどう動くかということ。「働きかけによる子どもの行動の変化」を先生に体感していただき、子どもをとりまく私達自身の目線を変えていく。それを通して大人たちが本当の「褒め上手」や「励まし上手」に育っていくことが大事です。

三宅 幹子

MIYAKE MOTOKO

専門

発達心理学 教育心理学

研究キーワード 児童期・青年期の発達 自我発達 対人関係

もっと知るには

